

令和3年4月21日

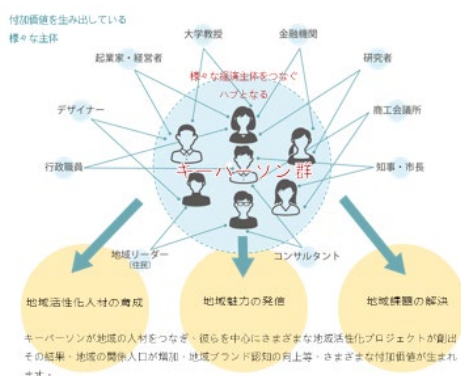
目の前の「もったいない」を価値あるものに変える ～「Key Person Profile」を作成しました～

地域の持続可能な発展の鍵を握るのは、地域で活動する「キーパーソン」と呼ばれる人々です。近畿経済産業局ではそのキーパーソンに着目し、キーパーソンの要件・要素について議論した結果、地域の『もったいない』を感じられることが、キーパーソンの重要な資質として浮かび上がりました。加えて、キーパーソンを受け入れる地域が留意すべきことやキーパーソンが地域に求めることを整理するとともに、次代を担う若きキーパーソンたちを紹介した冊子『Key Person Profile～目の前の「もったいない」を価値あるものに変える～』を作成しました。



Key Person Profile
目の前の「もったいない」を価値あるものに変える

冊子表紙



キーパーソンのイメージ図



次代を担う若きキーパーソン

1. 具体的な取組

地域を活性化させるキーパーソンとはどういう人なのか。近畿経済産業局では、キーパーソンの要件や資質について、すでに周囲からキーパーソンと呼ばれる方々との議論を行いました。その中でキーパーソンの資質として、「目の前の地域の現状を『もったいない』と感じられるか」が重要であるとの意見が強くありました。地域の資源や文化、伝統がなくなってしまうことを「もったいない」と思う感覚は、地域課題の解決や地域活性化に取り組む上で非常に重要なことです。

さらに、地域がキーパーソンを受け入れるにあたっては、その地域に多様性を受け入れられる土壌があるか、地域とキーパーソンが円滑に繋がることのできる仕組み

が成立するかなども大切な要素です。このことから、プロジェクトを成功させるフォーメーションの作り方(人の巻き込み方、共感を得る方法)やキーパーソンが地域で活躍するための受入れ側の課題等についても明らかにしました。加えて、次代の関西を創る若きキーパーソンを新たに発掘し、彼らの「人」や「活動」に着目した冊子『Key Person Profile～目の前の「もったいない」を価値あるものに変える～』としてとりまとめました。

2. 今後の展開

当局では引き続き、キーパーソン発掘、プレイアアップにより、「人」や「活動」を紹介するとともに、各地で活動するキーパーソン同士や彼らを必要とする自治体等がゆるやかに繋がる場を提供し、地域課題解決や地域活性化のための仕組みづくりを行ってまいります。

また 2025 年には、大阪・関西万博が開催され、2820 万人の来場者が見込まれています。当局の取り組みを通じて、各々の地域が持つ魅力を発信し、共感してもらい、万博の来場者にそれらの地域を訪れてもらうことで、地域活性化に寄与出来ることを期待しています。

3. 背景

地域の過疎が進み、限界集落の発生や近い将来消滅してしまう基礎自治体が出てくる可能性が指摘されている中、地域住民の生活インフラサービスをはじめ、地域の特色を活かした新規産業や雇用の創出、関係人口の増加は喫緊の課題となっています。

しかしながら、多くの地域資源を持っていないような地域であっても、多くの観光客が訪れたり、定住者が増加したり、住民が積極的にまちづくりに参加するなど、活気が出ている地域も多くあります。そのような地域には、キーパーソンと呼ばれる人材がすべからく存在し、彼らを中心に地域の魅力を再発見し、さらに発展させています。

そのため近畿経済産業局では、令和2年12月に立ち上げた「関西からキーパーソンを考える会」において議論を重ね、キーパーソンやその活動を行うにあたっての重要なポイントを整理しました。



(本発表資料のお問い合わせ先)

近畿経済産業局 中小企業政策調査課長 前原

担当者:松本、中野

電話:06-6966-6057

FAX :06-6966-6073